

# 安全データシート

## モノフルオール酢酸アミド

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

### 1. 化学品及び会社情報

#### 製品識別子

製品名 : モノフルオール酢酸アミド  
CB番号 : CB7122765  
CAS : 640-19-7  
同義語 : モノフルオール酢酸アミド

#### 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 農薬  
推奨されない用途 : なし

#### 会社ID

会社名 : Chemicalbook  
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟  
電話 : 400-158-6606

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 分類実施日

H18.5.24 (環境に対する有害性についてはH18.3.31)、GHS分類マニュアル(H18.2.10 版)を使用

##### 物理化学的危険性

金属腐食性物質 分類できない

有機過氧化物 分類対象外

酸化性固体 分類対象外

酸化性液体 分類対象外

水反応可燃性化学品 分類対象外

自己発熱性化学品 分類できない

自然発火性固体 区分外

自然発火性液体 分類対象外

自己反応性化学品 分類対象外

可燃性固体 区分外

引火性液体 分類対象外

高圧ガス 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類対象外

#### 健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2(呼吸器系 心血管系)

生殖毒性 区分2

発がん性 分類できない

生殖細胞変異原性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 分類できない

皮膚腐食性・刺激性 分類できない

急性毒性(吸入:粉じん) 分類できない

急性毒性(吸入:蒸気) 区分1

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分2

急性毒性(経口) 区分2

#### 環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 分類できない

水生環境急性有害性 分類できない

#### ラベル要素

#### 絵表示又はシンボル

GHS06

#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

呼吸器系、心血管系の障害のおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

吸入すると生命に危険

皮膚に接触すると生命に危険

飲み込むと生命に危険

#### 注意書き

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

#### 【廃棄】

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

#### 【保管】

ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

吸入した場合、直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、又は取り除くこと。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

#### 【応急措置】

適切な個人用保護具を使用すること。

適切な呼吸用保護具を着用すること。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ミスト、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。

適切な保護手袋、保護衣を着用すること。

眼、皮膚、又は衣類に付けないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

#### 【安全対策】

---

### 3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: モノフルオール酢酸アミド
別名	: フルオロアセトアミド (Fluoroacetamide)
分子式(分子量)	: C <sub>2</sub> H <sub>4</sub> FNO (77.06)
CAS番号:	: 640-19-7
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: 化審法- 安衛法-2-(6)-496
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: データなし
純度又は濃度範囲	: 1

---

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

直ちに医師に連絡すること。

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

#### 皮膚に付着した場合

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

直ちに医師に連絡すること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

## 目に入った場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。

## 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

直ちに医師に連絡すること。

## 予想される急性症状及び遅発性症状

経口摂取：腹痛、吐き気、嘔吐、縮瞳、筋痙攣、流涎

皮膚：吸収される可能性あり。

吸入：痙攣、吐き気、嘔吐。

## 最も重要な兆候及び症状

データなし

## 応急措置をする者の保護

データなし

## 医師に対する特別注意事項

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

### 使ってはならない消火剤

棒状放水

### 特有の危険有害性

激しく加熱すると燃焼する。

火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

### 特有の消火方法

消火が不可能なら、周辺を防護してそのまま無くなるまで燃焼させる。

容器内に水を入れてはいけない。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

### 消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

密閉された場所は換気する。

作業者は適切な保護具(『8.ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

風上に留まる。

関係者以外の立入りを禁止する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

### 環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

### 回収・中和

漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

### 封じ込め及び浄化方法・機材

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

### 二次災害の防止策

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

容器内に水を入れてはいけない。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

#### 局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

#### 安全取扱い注意事項

皮膚と接触しないこと。

飲み込まないこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼、皮膚又は衣類に付けないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

使用前に使用説明書を入手すること。

#### 接触回避

『10.安定性及び反応性』を参照。

## 保管

### 技術的対策

特別に技術的対策は必要としない。

### 混触危険物質

『10.安定性及び反応性』を参照。

### 保管条件

酸から離しておくこと。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

### 容器包装材料

データなし

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

未設定

### 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

#### 日本産衛学会(2007年版)

未設定

#### ACGIH(2007年版)

未設定

### 設備対策

ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

必要な個人用呼吸器保護具を使用すること。

適切な呼吸器保護具を着用すること。

#### 手の保護具

必要な個人用保護手袋を使用すること。

適切な保護手袋を着用すること。

#### 眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

#### 皮膚及び身体の保護具

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

適切な保護衣を着用すること。

### 衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状 固体

色 無色

臭い データなし

pH データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

-1.05 : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

水:1000000mg/L (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

データなし

データなし

データなし

0.991mmHg (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

108℃ : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

### 融点・凝固点

108℃ : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

### 沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

### 引火点

データなし

### 自然発火温度

データなし

### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

### 爆発範囲

データなし

### 蒸気圧

0.991mmHg (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

### 蒸気密度

データなし

### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

### 比重(密度)

データなし

### 溶解度

水:1000000mg/L (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

### オクタノール・水分配係数

-1.05 : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008)

### 分解温度

データなし

### 粘度

データなし

### 粉じん爆発下限濃度

データなし

### 最小発火エネルギー

データなし

### 体積抵抗率(導電率)

データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

### 危険有害反応可能性

加熱あるいは酸の影響下で分解し、有毒なヒューム(窒素酸化物など)を生じる。

### 避けるべき条件

加熱



## 混触危険物質

酸

## 危険有害な分解生成物

有毒なヒューム(窒素酸化物など)

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

ラットのLD50=5.75mg/kg (RTECS(2003))、13mg/kg (HSDB(2003))のうち、より毒性の強い値(LD50=5.75mg/kg)を採用し、区分2とした。

#### 経皮

ラットのLD50=80mg/kgより区分2とした。

#### 吸入

吸入(ミスト): データなし

吸入(粉じん): データなし

吸入(蒸気): 本物質(昇華する)の蒸気圧132Pa(25℃)から飽和濃度は4.1mg/Lと計算され、吸入毒性試験濃度の約0.14mg/Lは蒸気と考えられる。従って、ラットのLC50(4時間)=0.1366 mg/l(♂)、0.1445 mg/l(♀)(Biomed Environ Sci (2000))のうち、より毒性の強い値(LC50(4時間)=0.1366 mg/l=43.3ppm)を採用し、区分1とした。

吸入(ガス): GHSの定義における固体

### 皮膚腐食性・刺激性

データなし

### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

データなし

### 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:データなし

### 生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない

### 発がん性

データなし

### 生殖毒性

雄ラットで、精子細胞の発達異常および精巣の精上皮への影響が報告されている(HSDB(2003))。また雌マウスでも、本物質の投与による妊娠への影響(妊娠期間の延長、出生前死亡の増加ならびに、仔のチアノーゼ、呼吸困難、生存率の減少)が報告されている(HSDB(2003))ことに加え、ヒトに対するICSC(J)(2002)の記述(動物試験では人で生殖・発生毒性を引き起こす可能性があることが示されている)から区分2とした。

---

## 12. 環境影響情報

## 水生環境急性有害性

データ不足のため分類できない。

## 水生環境慢性有害性

データ不足のため分類できない。

---

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

### 汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

---

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上規制情報

IMOの規定に従う。

#### 航空規制情報

ICAO/IATAの規定に従う。

#### UNNo.

2811

#### ProperShippingName.

Toxic solid, organic, n.o.s.

#### Class

(注意:物質純度に応じて、複数の国連番号あり)

6.1

### 国内規制

#### 陸上規制情報

毒劇法の規制に従う。

#### 海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

#### 航空規制情報

航空法の規定に従う。

### 特別安全対策

重量物を上積みしない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

## 緊急時応急措置指針番号

154

---

## 15. 適用法令

### 毒物及び劇物取締法

毒物(指定令第1条)(政令番号:28)

毒物(法第2条別表第1)(法令番号:26)

特定毒物(指定令第3条)(政令番号:9)

特定毒物(法第2条別表第3)(法令番号:9)

### 船舶安全法

毒物類・毒物

### 航空法

毒物類・毒物

### 港則法

毒物類・毒物

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

### 参考文献

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【11】 HSDB - 有害物質データベース、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【10】 有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【9】 ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【8】 eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

pageID=0&request\_locale=en

【7】 ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【6】 ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【5】 カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【4】 NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) <https://www.nite.go.jp/>

【3】 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【2】 化学物質審査規制法 (化審法) <https://www.env.go.jp>

【1】 労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

**免責事項:**

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。